

令和元年度(平成30年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 14-011

PDCA	事務事業名	ごみ収集運搬事業	部課等名	市民経済部 クリーンセンター ごみ減量担当	担当	榊原	
					内線等	23-3567	
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第3章 にぎわいの創出と良好な環境が両立するまち 節： 第2節 環境との共生 基本施策： 2. 廃棄物対策 単位施策： (2) 廃棄物の処理 個別施策： ②廃棄物の適正処理					
	根拠法令等	半田市廃棄物の減量及び処理に関する条例					
	対象・目的	家庭のごみや資源を速やかに収集することにより、街の美化に努め、市民の生活環境の向上を図る。					
	目的を達成するための手段・活動内容	ごみステーションに出されたごみ等の収集 収集車両の適切な維持管理 粗大ごみの戸別収集 委託業者への指導 ごみ袋及び指定資源回収袋の適切な管理					
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績	28年度	29年度	30年度	単位	
		①ごみステーションから収集した家庭ごみ総量	22,836	22,674	22,639	トン	
		②					
		③					
		事業費	256,411	253,821	236,707	千円	
		人件費	20,647	21,256	10,372	千円	
		総事業費	277,058	275,077	247,079	千円	
		活動単位当たりのコスト	28年度	29年度	30年度	単位	
	①市民一人当たりのごみ収集運搬事業費	2	2	2	千円		
	②						
	③						
	成 果	成果指標	28年度	29年度	30年度	単位	
		①ごみステーションへの不適正な排出の削減	実績値 180	155	147	件	
			目標値 160	145	140		
②		実績値					
		目標値					
③		実績値					
C 課題の整理	観点別評価	必要性	有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性 妥当	④上位施策への貢献 大きい	⑦コスト削減余地 ある			
		②市民ニーズ 高い	⑤成果向上の余地 ある	※対象・手段の変更			
		③休廃止の影響 大きい	⑥類似事業の有無 ない	⑧受益者負担適正化余地 ある			
	事業の評価・課題	C 6月をもって直営収集を廃止し、全面委託によるごみ収集となったが、特に問題なく収集を実施できた。ごみステーションへの不適正な排出については、目標値は達成できなかったものの、昨年度の実績を下回る結果となった。 引き続き、看板などによる地域への注意喚起を行い、不適正排出の未然防止に努める。					
	A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	改善推進 ごみステーションに排出すべきではないものについて市民への周知を図り、正しく出してもらえよう努める。 住民のほか、事業者にも適正な排出を促すために、今後、事業者向けのごみの出し方にかかわる冊子を作成、配布を行う。				
		令和元年度の目標	成果指標	目標値			単位
			①ごみステーションへの不適正な排出の削減	140			件